



中洲・映画まちづくりプロジェクト

福岡市中洲は夜のまちとして有名で、映画館は大洋劇場だけであるが、かつて多くの映画館がひしめく日本一の映画のまちだった。昼間に人々が詰めかけ映画を観てショッピングや食事を楽しんだ。コロナ禍の飲食業の苦境を機に、映画やエンターテインメントを切り口にして、中洲の新しいまちづくりを考えたいと、九州大学芸術工学研究院と中洲のまちのコラボが実現した。



河瀬直美監督

映画作家。生まれ育った奈良を拠点に映画を創り続け、一貫したリアリティの追求による作品創りは、カンヌ映画祭をはじめ国内外で高い評価を受ける。代表作は『萌の朱雀』『殞の森』『2つ目の窓』『あん』『光』『朝が来る』など。映画監督の他、CM演出、エッセイ執筆などジャンルにこだわらず表現活動が続け、故郷奈良において「なら国際映画祭」をオーガナイズしながら次世代の育成にも力を入れている。東京2020オリンピック公式映画総監督、2025年大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー兼シニアアドバイザー、バスケットボール女子日本リーグ会長、国連教育科学文化機関（ユネスコ）親善大使を務める。プライベートでは野菜やお米も作る一児の母。



映画「朝が来る」

実の子を持たなかった夫婦と実の子を育てることができなかった14歳の少女を繋ぐ「特別養子縁組」によって、新たに芽生える家族の美しい絆と胸を揺さぶる葛藤を描く。監督：河瀬直美。原作：辻村深月。出演：永作博美、井浦新、蒔田彩珠、浅田美代子他。2020年10月公開。第73回カンヌ映画祭公式セレクション、第93回米アカデミー賞国際長編映画賞候補、日本代表として選出。第44回日本アカデミー賞7部門で優秀賞を受賞。



パネルディスカッション登壇者のご紹介



岡部知寛 大洋グループ代表取締役社長

カンヌライオンズ受賞のCM制作をはじめ、アミューズメントコンテンツの提供など、福岡をリードするエンターテインメント事業を展開。大洋映画劇場は祖父が創業。（映画館社長は現在、従兄弟が務める）



川原武浩 株式会社ふくや代表取締役社長

日本で初めて辛子明太子を製造販売した（株）ふくや5代目社長。創業期の博多座での勤務経験を活かし、地方からのコンテンツ発信としてドラマ「めんたいぴりり」を企画。中洲町連合会や中洲観光協会などの活動を通じて、博多・中洲のまちづくりにも深く関わっている。



井上和久 株式会社グッドラックスリー代表取締役社長

「ブロックチェーン×エンターテインメントで世界最先端を走る」というビジョンを掲げ、ぐでたま、モルカー、ぴえん等、数々のヒットコンテンツを開発。中洲を舞台にしたミュージックビデオも撮影。



中島 良 映画監督

『俺たちの世界』が第29回びあフィルムフェスティバルにて審査員特別賞、ニューヨーク・アジア映画祭で最優秀新人賞を受賞。16年、福岡市能古島で撮影を行った『なつやすみの巨匠』をきっかけに福岡市と東京の二拠点で活動を行う。



安部 良 Architects Atelier Ryo Abe 主宰

建築家。奈良県十津川村「高森のいえ」をはじめ、日本各地で地域活性の基盤づくりとその舞台となる場の設計を手がけている。



高取千佳 九州大学芸術工学研究院准教授

専門はランドスケープと都市計画。那珂川ウォーターマネジメント研究会を主催し、中洲地区のまちづくりに関わる。